

News Release

農作業事故の未然防止に向けた情報発信について

～ 共済金支払データによる農作業事故の発生状況にかかる分析結果を公表 ～

分析対象データを関係団体で共有する枠組みを構築し、啓発活動の充実や新たな知見の創出に繋がります。

J A 共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長：柳井 二三夫）では、農作業事故の未然防止に向けて、これまで農業者の皆さまへの保障提供を通じて蓄積してきた共済金支払データを活用し、農作業事故の発生状況について分析しました。

併せて、分析対象としたデータを行政機関や関係団体と共有・発信する枠組みを構築し、農作業に伴う事故リスク低減に向けた取組みを新たに実施します。

農林水産省より公表される農作業死亡事故の調査結果によれば、農業における死亡事故発生割合は、建設業なども含む他産業と比較し、大きく上回る状況が長く続いており、農業の危険性が叫ばれて久しいところです。

一方、死亡以外の事故を含めた農作業事故の全体像については、統計データの不足から、十分な分析を行うことができておりませんでした。

このような実態を踏まえ、J A 共済連では 2 万件を超える共済金支払データに基づき、農作業事故の発生状況を分析するとともに、こうしたデータを農林水産省をはじめとする行政機関や、農作業の安全啓発に取り組む農研機構・日本農村医学会などの関係団体と共有する枠組みを構築することにより、啓発活動の充実や新たな知見の創出に繋がります。

J A 共済連では、今後、農作業事故の未然防止に向けた活動を、保障提供の活動と共に車の両輪と位置付け、取組みを強化してまいります。

農作業事故の発生状況の分析について

分析および結果の詳細については、**別添 1** をご参照ください。

（J A 共済ホームページ（<http://www.ja-kyosai.or.jp/>）より、ニュースリリースのページにて分析結果の「概要版」、「詳細版」をご覧いただけます。）

行政機関や関係団体とのデータ共有の枠組みについて

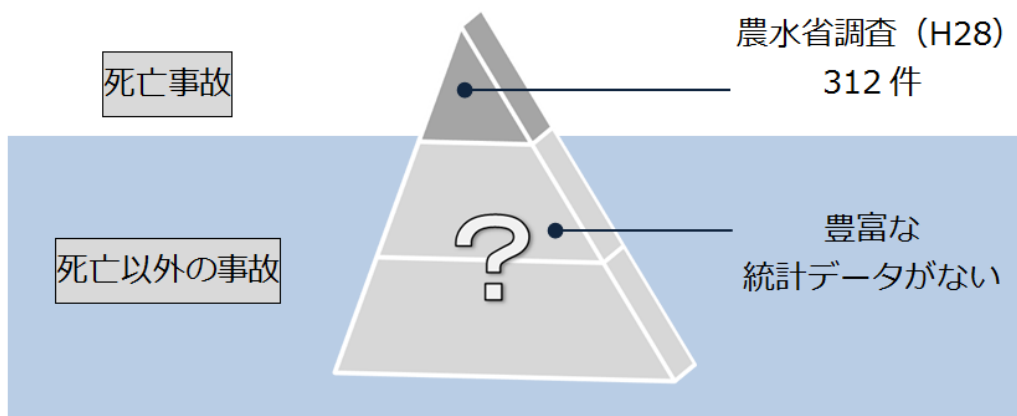
データ共有にかかる枠組みの詳細については、**別添 2** をご参照ください。

以 上

1. 農作業中の死亡事故は「氷山の一角」？

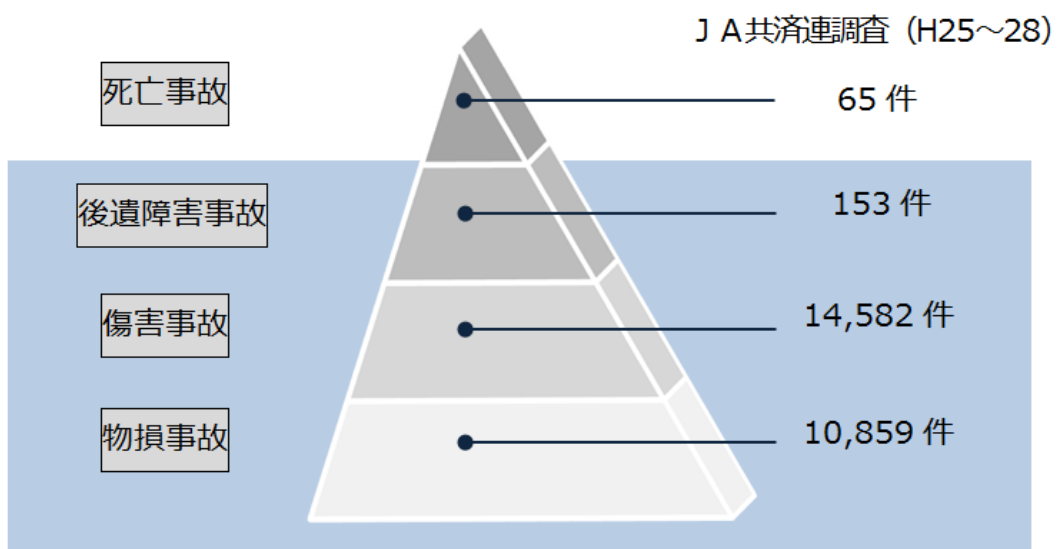
- 毎年、農林水産省が公表している農作業中の死亡事故は、農作業事故の全体像からすれば「氷山の一角」と思われます。
- 農作業事故の全体像を明らかにするためには、死亡以外の災害を含めた発生状況を明らかにする必要があります。

(図1) 農作業事故の氷山イメージ



- 今回、JA共済連では農作業事故の全体像を明らかにするため、農家組合員への保障提供の活動を通じて蓄積してきた共済金支払データに基づき、分析を行いました。

(図2) 分析対象データ

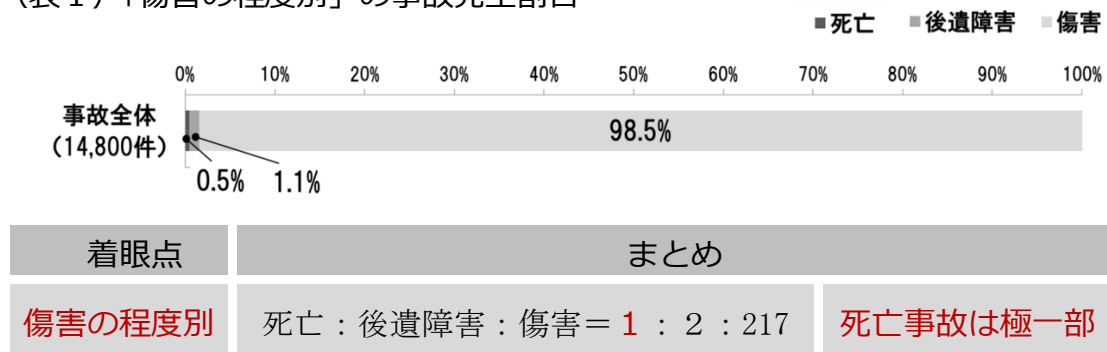


(注) 死亡、後遺障害、傷害事故は、傷害共済のデータを、物損事故は自動車共済のデータを元に、一定の条件で抽出した農作業事故を分析しました。

2. 死亡以外を含めた農作業事故の発生状況は？

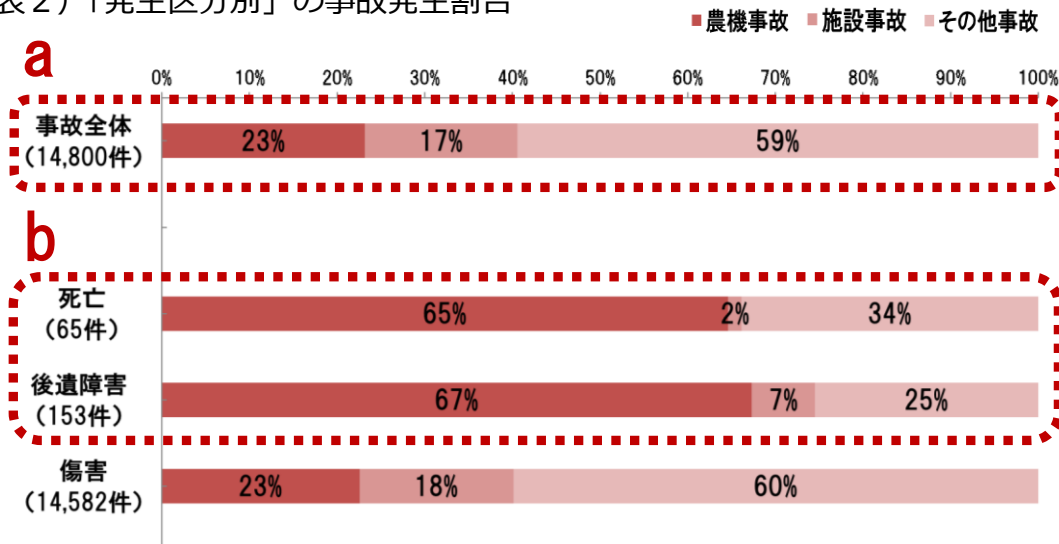
- 「死亡」、「後遺障害」、「傷害」の区分で、発生状況を分析した結果は次のとおりとなりました。農水省調査による平成 28 年の死亡事故が 312 件であることを踏まえると、農作業事故は年間約 7 万件発生していると推測されます。

(表 1) 「傷害の程度別」の事故発生割合



- 農林水産省の調査を参考に「農機事故」、「施設事故」、「その他事故」の区分で、発生状況を分析した結果は次のとおりとなりました。

(表 2) 「発生区分別」の事故発生割合



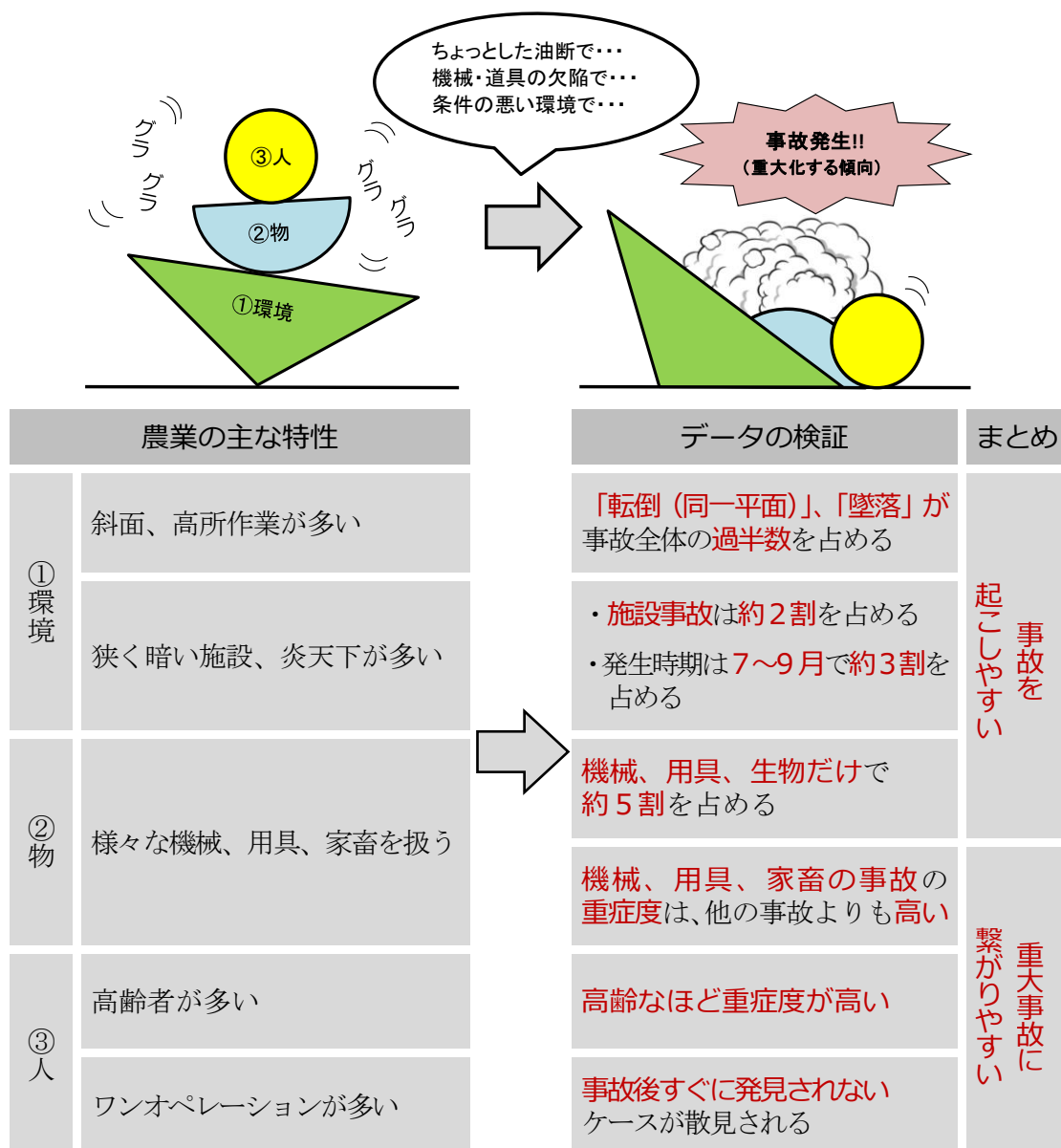
着眼点	まとめ	
a : 事故全体	農機：施設：その他＝2 : 2 : 6	「その他事故」が多い
b : 重大事故 (死亡・後遺障害)	農機：施設：その他＝7 : 0 : 3	「農機事故」が多い※

※ 死亡事故においては農水省調査と同様の傾向が確認されました。

3. なぜ農作業事故が起こるのか？

- 事故には「環境」、「物」、「人」の3つの因子があり、こと農業においては、その産業としての特性により、それぞれの因子が構造的な課題を抱えていると言われています※。
- 「農業の主な特性」が、事故の起こりやすさ、重大事故への繋がりやすさに影響していることが、データ分析からも明らかになりました。

(図3) 農業の主な特性と事故の関係



※ 参考文献 農水省補助事業 日本農村医学会「農作業安全の手順 1. 2. 3」

4. 優先して対処すべきリスクの「見える化」

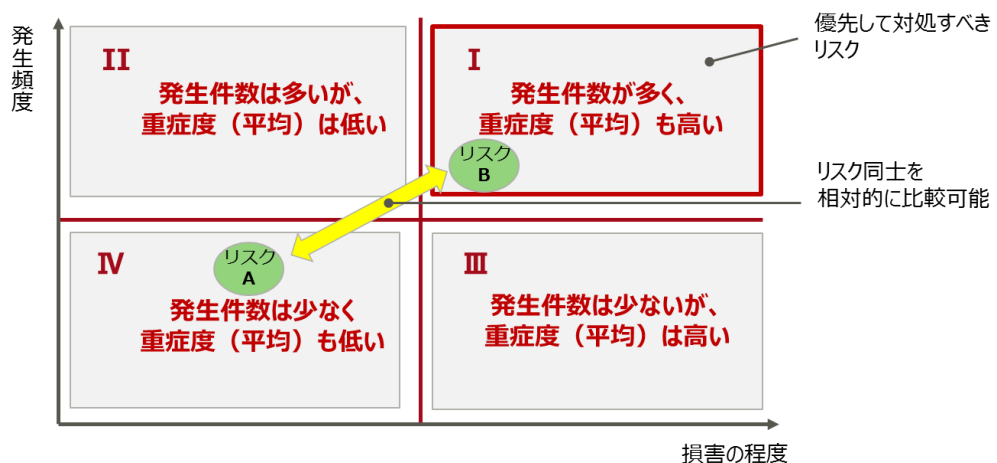
- 農作業事故の原因となっている主な農業機械・用具・生物（合計14種類）それぞれについて分析するために、「事故の型（～するとき、～になった）」を整理・分類しました。

（図4）主要な農業機械・用具・生物



- 分類した「事故の型（～するとき、～になった）」を「発生頻度」と「損害の程度」の2つ側面から分析し、優先的に対処すべきリスクを「見える化」することで、関係者間で情報の共有を可能としました。

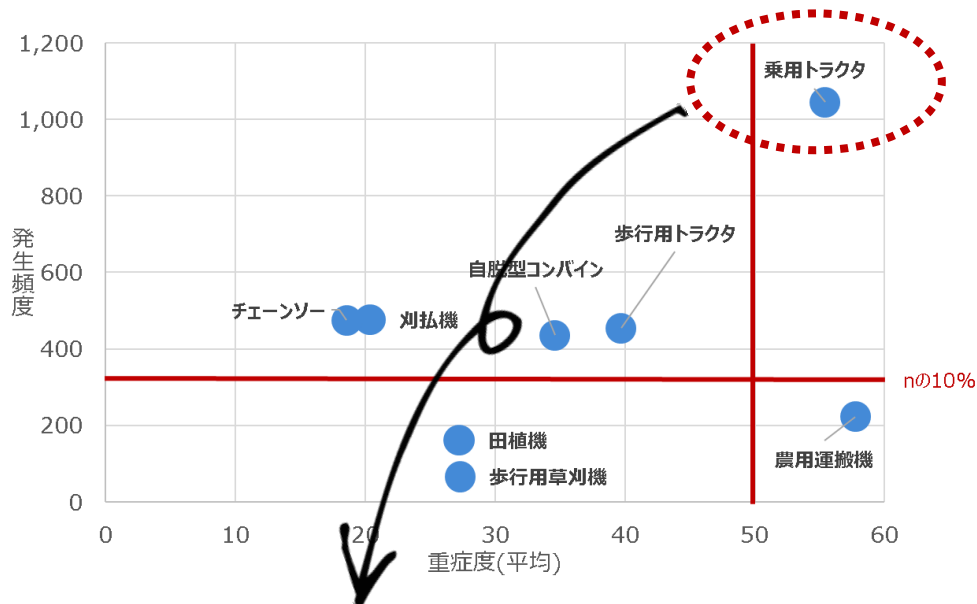
（図5）リスクマップ



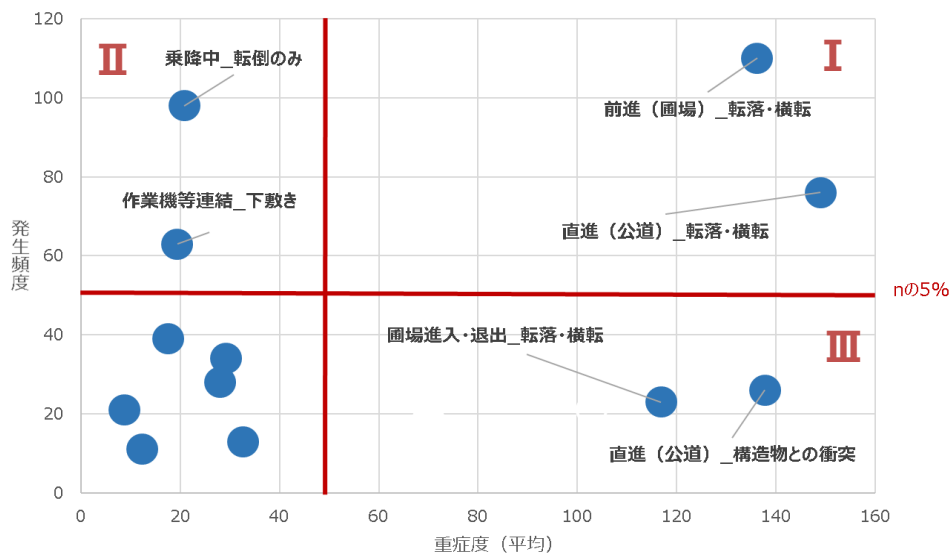
5. リスクマップの例（乗用トラクタ）

- 「乗用トラクタ」のリスクについて、リスクマップで「見える化」しました。

（図6）「主要な農機」のリスクを相対的に比較



（図7）乗用トラクタの様々な「事故の型」を相対的に比較



I 発生件数 多 重症度 高	II 発生件数 多 重症度 低	III 発生件数 少 重症度 高
前進（圃場）－転落・横転	乗降中－転倒（のみ）	直進（公道）－構造物と衝突
直進（公道）－転落・横転	作業機等連結－下敷き	圃場出入り－転落・横転

※ 「重症度」はJ A共済連が独自に算出した指標です。

(参考) 主要な農業機械・用具・生物の事故特性のまとめ

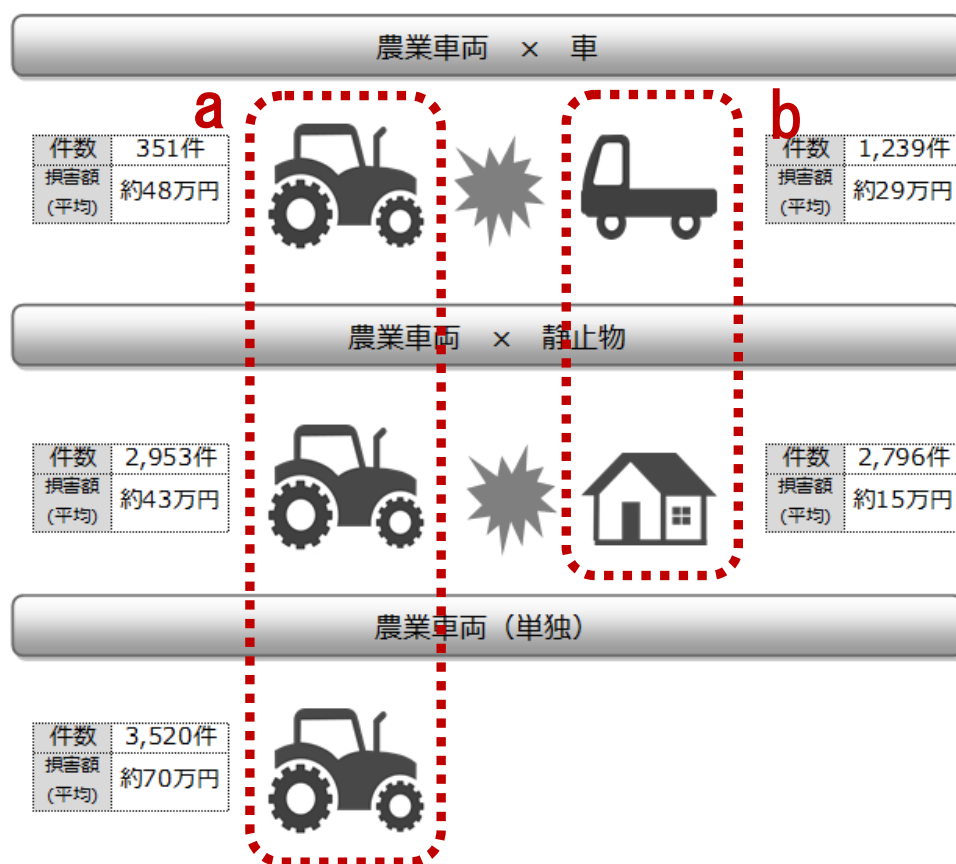
	:「乗用型」使用時の「公道・圃場での転落・横転・衝突」
	:「乗用型」使用時の「乗降中の人の転倒」
	:「歩行型」使用時の「下敷き・巻き込まれ・構造物と機械に挟まれ」
	:「刈払機・脚立・はしご」使用時の「(不安定な場所からの) 転落・墜落」
	:「刃のある機具」使用時の「巻き込まれ・刃との接触」

		発生件数 多 重症度 高	発生件数 多 重症度 低	発生件数 少 重症度 高
乗用型	乗用 トラクタ	前進（圃場）－転落・横転	乗降中－転倒（のみ）	直進（公道）－構造物と衝突
		直進（公道）－転落・横転	作業機等連結－下敷き	圃場出入り－転落・横転
	田植え機	－	乗降・苗交換中－転倒（のみ）	直進（公道）－構造物と衝突
			点検・手入れ－刃との接触	－
	自脱型 コンバイン	－	手こぎ等－巻き込まれ	後進（圃場）－転落・横転
			つまり除去－刃との接触	糞排出－構造物と機械に挟まれ
兼用型	歩行型 トラクタ	後進（圃場）－構造物と機械に挟まれ	前進（圃場）－巻き込まれ	始動－巻き込まれ
		－	－	直進（公道）－転落・横転
	農用運搬機	後進（圃場）－下敷き	後進（圃場）－構造物と機械に挟まれ	始動－構造物と機械に挟まれ
		前進（圃場）－転落・横転	－	－
その他	歩行用 草刈機	－	前進－飛散物跳ね上げ	停止－刃との接触
			停止－巻き込まれ	前進－巻き込まれ
	刈払機	－	前進－巻き込まれ	前進－転落・横転
			前進－飛散物跳ね上げ	－
	チェーンソー	－	立木切断－巻き込まれ	立木切断－倒木の下敷き
			剪定－巻き込まれ	－
用具	脚立	樹園地－墜落	樹園地－踏み外し	畑－墜落
		－	－	作業舎/格納庫－墜落
	はしご	樹園地－墜落	－	作業舎/格納庫－墜落
		樹園地－踏み外し		畑－墜落
	鎌	－	田－刃との接触	－
			畑－刃との接触	
	はさみ	－	樹園地－刃との接触	－
生物	牛	畜舎－蹴られ	畜舎－ぶつかられる	－
		－	畜舎－引っ張られる	
	蜂	－	樹園地－刺され	－
			畑－刺され	

6. 農業用車両の物損事故の実態は？

- 農作業事故では、人的被害だけではなく物損被害が発生することが多くあります。
- 農業用車両における物損事故の実態について、発生状況を分析した結果は次のとおりとなりました。

(図8) 事故形態と損害の対象物別の物損被害の発生状況

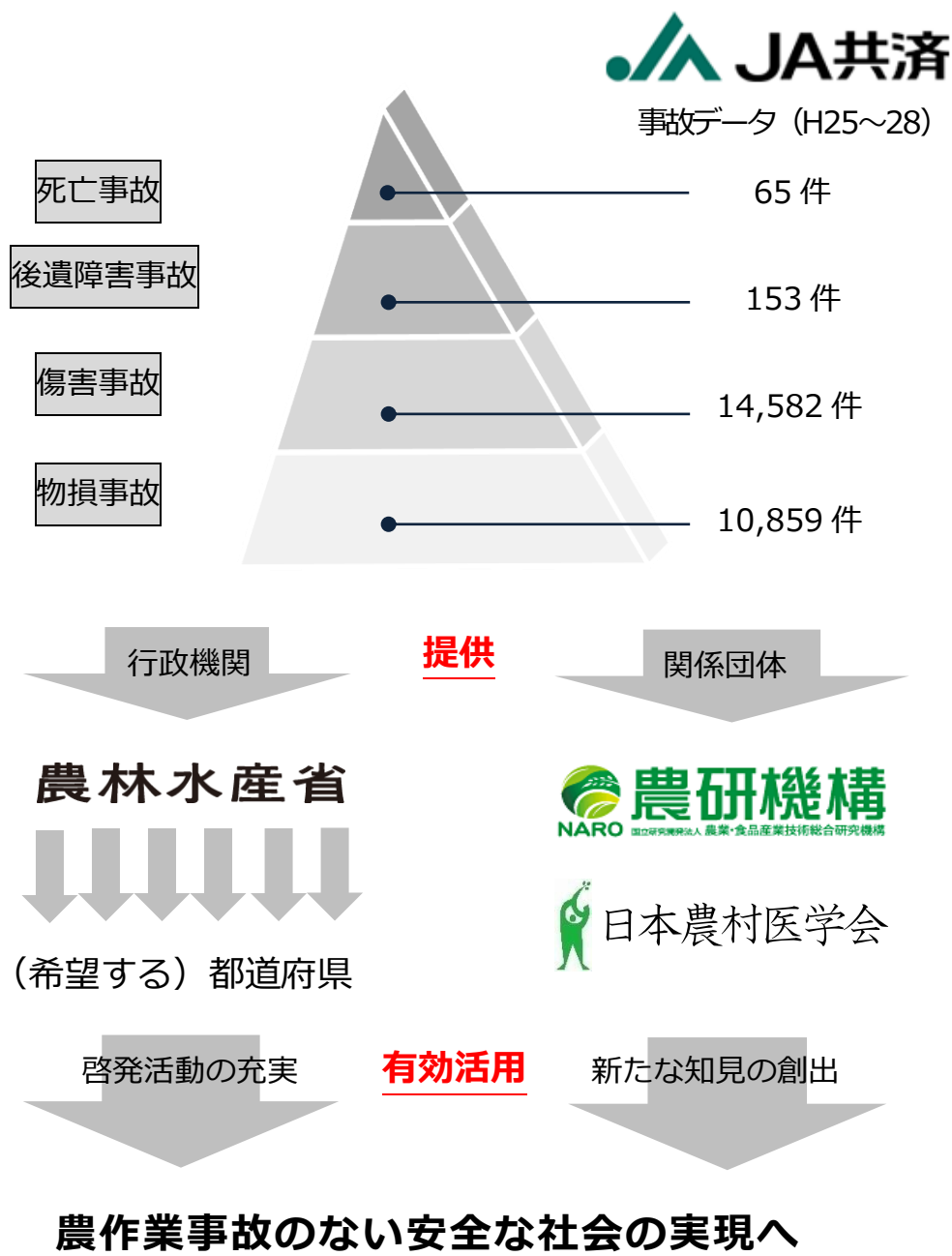


着眼点	まとめ
a : 自車両	「農業車両 (単独)」の事故形態が、件数・損害額 (平均) ともに最も高い。 ※ 損害額の高い「転倒・転落」事故が車両単独で多く発生していることが影響している。
b : 衝突対象 (相手方)	「静止物」との衝突が多く発生している。 ※ 「壁」および「給水・排水設備」への衝突が特に多い。

行政機関や関係団体とのデータ共有の枠組み

- J A 共済連が分析対象とした 2 万件超の事故データは、農作業安全に取り組む行政機関や関係団体と共有する枠組みを構築することにより、啓発活動の充実や新たな知見の創出に繋がります※。

(図) 分析対象データの提供の枠組み



農研機構、日本農村医学会には分析にあたり御助言をいただく等、御支援をいただきました。

※ 提供時期・提供方法の詳細については調整中です。